

【日本の大学】第 52 回——新潟大学：「自律と創生」の大規模総合大学

本州・日本海側の中央部に位置する新潟県新潟市にメインキャンパスがある国立の総合大学が新潟大学である。明治時代の初期にできた病院や師範学校を淵源としており、その歴史とアジア大陸に向けて開かれた海港都市としての進取の精神を受け継いでいる。

「自律と創生」を理念としており、この理念を実現するため、人材育成のための全学分野横断創生プログラムや大学の世界展開力強化事業など特色のある事業にも取り組んでいる。現在、学生数は約 12000 人、教職員数約 3000 人を擁する大規模な国立大学である。



五十嵐キャンパス正門

医療、教育の長い歴史

以下、大学のホームページなどからその歴史や現状を概観してみよう。

大学の前史は 1869 年に新潟市内にできた施薬院と種痘所や、翌 70 年に設置された仮病院（共立病院）に始まる。3 年後には、私立新潟病院が医学町に開院、さらにその 3 年後に県に移管されて県立病院となった。医学部につながる系譜としては、県立病院の附属医学所が県立新潟医学校と改称（1879）されたことや、官立新潟医学専門学校の開校（1910 年）、新潟医科大学の設立（1922 年）なども挙げられる。

教育学部への系譜としては、1874年の官立新潟師範学校の設立に始まる。その後、新潟県師範学校と県立新潟学校を統合して新潟学校が発足し（1877年）、新潟学校師範学部を新潟県尋常師範学校と改称して独立（1886年）している。また新潟のほかにも高田にも師範学校が、長岡には女子師範学校が相次いで設立された。

このほか、1919年に新潟高等学校が、1923年には長岡高等工業学校が設立されている。

以上の旧制新潟医科大学と旧制新潟高等学校を母体に、三つの師範学校、長岡高等工業学校、新潟県立農林学校などが集まって、第2次大戦後の1949年に設立されたのが新潟大学である。スタートは人文学部、教育学部、理学部、医学部、工学部、農学部の6学部であった。

1965年には歯学部を設置、人文学部は法文学部に改称（1977年）されたあと、1980年に人文学部、法学部、経済学部に分離改組をしている。教育学部は1998年に教育人間科学部に改組されたが、2008年に教育学部に再改組されている。

2017年には10番目の学部として創生学部を設置。2020年には経済学部を経済科学部に名称を変更している。

大学院は1955年に医学研究科（博士課程）を設置したのを手始めに、理学研究科（修士課程、1965年）、工学研究科（修士課程、66年）などが次々に設置された。現在、5研究科がある。このほか、脳研究所を1967年に設置し、災害・復興科学研究所、医歯学総合病院、附属学校園（付属の小中学校、幼稚園、特殊支援学校）を有している。また、全学組織として、環東アジア研究センター、佐渡自然共生科学センター、日本酒学センターといった特色のある組織もある。



旭町・西大畑キャンパス正門

基礎と横断型がキーワード

人文学部は2010年度にそれまで各課程に分けていた制度を廃止して1学科に移行、さらに2020年度に大きな改革を実施した。入学して1年間は人文科学の基礎をみっちり学び、2年次に進むときに、三つの主専攻プログラムから一つを選択。3年間は、そのプログラムのカリキュラムに沿って専門基礎を中心に学修する。プログラムは「心理・人間学」「社会文化学」「言語文化学」に分かれている。従来からの、演習形式による少人数教育や、多様なメニューが用意されている外国語教育、卒業後の社会人基礎力を涵養するキャリア教育などは従来同様に提供される。



人文社会科学系講義棟

教育学部は、新潟師範学校からの140年以上の伝統を持つ。総合大学における教員養成の基幹学部として学校教育全体を総合的に捉える広い視野と、教員に必要な資質と専門的・実践的力量を身につけた教員を養成する。

経済学部は、2020年に経済学部から衣替えした学部である。経済学部の際は経済学科と経営学科に分かれていて、入試も別だったが、新学部は1学部1学科4プログラムとし、入り口を一つとして、1年次に基礎的な勉強をしてから2年次に経済学プログラムに進むか、経営学プログラムにするかを選択できるようにした。経済学プログラムでは近代経済学、社会経済学、経済史など幅広く学ぶことができる。経営学プログラムでは経営学、会計学などを学ぶ。さらに、グローバル化した社会について考えている人のための学際日本学プログラムを、地域社会を考えている人には地域リーダープログラムを選択することもできる。学部の学生はどのプログラムの科目も履修できる。

理学部は、理学科の下に七つの主専攻プログラムで構成されている。七つは数学、物理学、化学、生物学、地質科学、自然環境科学、フィールド科学人材育成の各プログラムである。自然環境科学やフィールド科学を中心に農学部や佐渡自然共生科学センター臨界実験所、災害・復興科学研究所などと連携しながら、今日的な複合的課題に横断的かつ積極的に取り組んでいる。学部卒業生の過半数が大学院に進学している。

医学部は医学科と保健学科があるが、どちらも長い歴史を経てきている。医学科は明治時代初めの施薬院や仮病院にまでさかのぼるが、医学部では1910年の官立新潟医学専門学校の開設を創立の年としており、2020年に創立110周年を迎えた。保健学科は1881年の新潟医学校附属産婆教場の開設が始まりである。その後、何度かの組織的変更を経て1974年に新潟大学医療技術短期大学部となり、1999年に現在の4年制の学科として設置された。看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3専攻に分かれている。

農学部は、21世紀における持続的な農業の発展と環境の保全を目指し、国際的な視野を持ち基礎科学と応用技術を活用できる人材を養成している。最新のバイオサイエンスや情報技術を活用して地域貢献型プロジェクトにも注力している。農学科の下に、応用生命科学、食品科学、生物資源科学、流域環境学、フィールド科学人材育成の5プログラムに分かれて研究教育活動を実施している。



農学部の試験圃場

2017年に誕生した創生学部は、学生一人ひとりが自分で目標を設定し、課題や専門領域を選んで学びを創っていく新しい教育プログラムを持つ学部である。大学で開講されている多くの講義に実際に触れてから自分の専門性を選ぶことができる。選んでからも他学部

のさまざまに異なる分野の学生同士で議論を交わして自らの問いを大きく広げていくことができる。

科学技術・経済・環境・エネルギーなど、さまざまな分野の課題を把握し、解決する力を育てる授業科目群を、初年度から卒業まで一貫して提供している。グループ主体のゼミ・ラボ活動を通して、コミュニケーション能力と、協働してプロジェクトを実行する力を育成していく。学生各人の関心に合わせて、人文・法・経済科学・理・工・農の各学部が提供する専門授業科目群（21 領域の学修科目パッケージ）を選択する。一貫して少人数指導体制をとり、教員がきめ細やかに学生一人ひとりのテーマ設定、選択、履修を支援する。

地域的特色持つ研究センター

大学では、新潟の文化的、地域的な特色を生かした研究施設を近年次々に立ち上げている。日本で最も積雪の多い地帯であるため、積雪地域災害研究センターや災害復興科学センターにおいて積み上げてきた災害研究実績を受け継いで、2011 年には災害・復興科学研究所を立ち上げた。

東アジアとそれを取り巻く地域（環東アジア地域）の発展と平和に寄与する学術研究機関として2018年に設置されたのが環東アジア研究センターである。目覚ましい成長を遂げているこの地域は、成長の恩恵を受けている人々がいる半面、貧困や紛争に苦しむ人々がいるのが現状である。センターはこうした課題の解決に学術面から貢献する目的で発足した。相互理解を重視しながら、成果をアジアの人々に共有してもらえることを目指す。

佐渡島特有の資源である「森・里・海」を活用し、総合的に生態系を理解し、保全することを目指して2019年に設立されたのが佐渡自然共生科学センターである。

日本有数の酒どころという特色を生かして、つくられたのが「日本酒学センター」である。日本酒に係る文化的・科学的な幅広い分野を網羅する学問分野「日本酒学」の構築、発展を図る目的で県、県酒造組合と協力して新潟大学日本酒学センターを立ち上げ（2018年）、2020年からは、これを発展させて全学共同研究組織に格上げした。



日本酒学センター

主要なキャンパスは新潟市内の五十嵐キャンパスと、旭町・西大畑キャンパスである。本部のある五十嵐キャンパスには医歯学系の学部・大学院を除く 8 学部、3 大学院、附属図書館などが集結する。旭町・西大畑キャンパスには医学部、歯学部、医歯学総合研究科、保健学研究科が集まり、脳研究所や総合病院などを有している。



脳研究所

「全学分野横断創生プログラム」は、学部の枠にとらわれない、複数の専門領域を横断して学ぶことができるオーダーメイド型のメジャー・マイナー制教育プログラムである。学部で学ぶ主専攻（メジャー）をベースに他分野を副専攻（マイナー）として学ぶことができるシステムだ。ほかにも「世界展開力強化事業」「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業」など、特色のある事業にも取り組んでいる。

海外留学や国際交流は、ショートプログラム、専門分野プログラム、交換留学などが用意されているが、この2年近く、新型コロナウイルスの影響を受けて大きく停滞している。

学生数は学部が10101名、大学院が2071名である（2021年5月現在）。教職員は教員が1175人、職員が2591名で、計3766名である。外国人留学生数は2019年11月の段階では581名いたが、新型コロナウイルス流行の影響によって減少しており、2021年11月現在では44の国・地域から415名となっている。

学長は牛木辰男氏である。1982年新潟大学医学部医学科を卒業、86年同大学大学院医学研究科博士課程修了（医学博士）、岩手医科大学医学部助手、北海道大学医学部助教授、95年から新潟大学医学部教授、医学部副部長、医学部長などを経て、2018年理事・副学長、20年2月に学長に就任した。専門は顕微解剖学である。

文：滝川 進

写真：新潟大学 Facebook